

前置詞の指導と習得

静岡県立大学

須田孝司

外国語教育メディア学会 第94回中部支部研究大会 シンポジウム（静岡大学浜松キャンパス）

前置詞はむずかしい

- 覚えられない（一単語の前置詞90以上）
 - よく使うものでも50程度ある？
- 使い分けが難しい
 - 役割が多い（時、場所、手段、理由、方向、、、）
 - いろいろな前置詞が同じ役割で使われる
 - 日本語との関連が一様ではない（前置詞＝助詞？）

いろいろな前置詞が使われる

- 時 (in, at, on; before, after; till, by; from, since; during, for, through)
 - at: 時の1点
 - at the weekend (UK) vs. on the weekend (US)
 - in: 期間
 - in the morning vs. at night
 - on: 日付や曜日
 - on Christmas vs. at Christmas

日本語との関連

- to=に

- I will go to Tokyo in March.

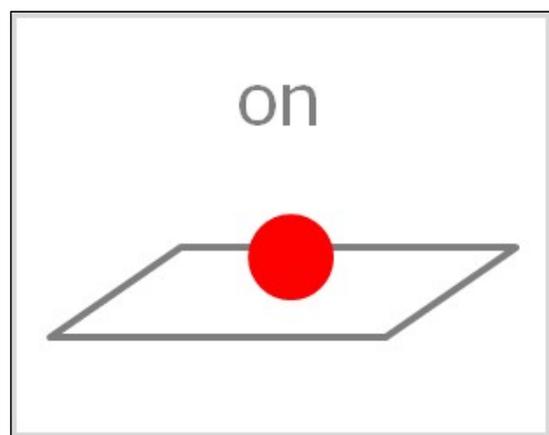
- This is the key to success.

- for=へ

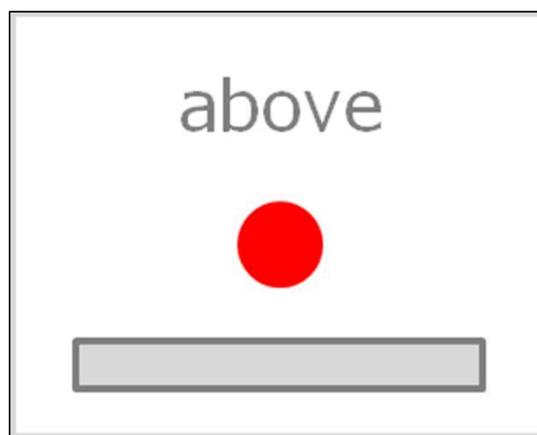
- I will leave for Tokyo in March.

- My grandfather goes for a walk in the evening.

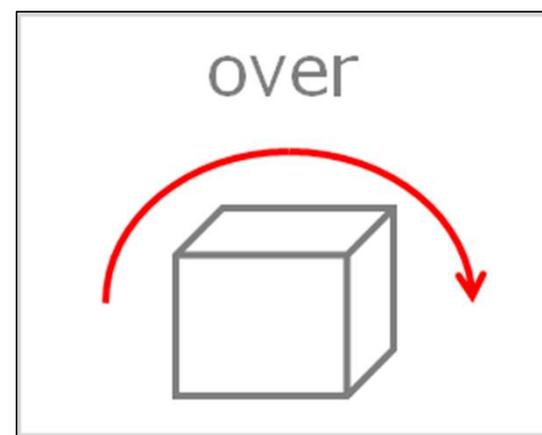
コア・イメージやイメージ・スキーマによる指導



何かに触れている



ある場所より高い
ところにある



アーチ状に移動する

これまでの研究

- イメージを利用した指導の直後は効果があるが、遅延テストでは効果が消える（Mitsugi, 2013; 三ツ木・長嶋, 2014; Morimoto & Loewen, 2007; 安原, 2011）。
- プロトタイプ（コア）の特徴には指導効果がある（Taferner, 2016）。

本研究の目的

- コア・イメージの指導は効果があるのか？
- コア・イメージから拡張された用法はどうか？

実験参加者

- 大学1-2年生 61人
((3回の指導と) 3回の実験に参加した人)

	人数	OQPT	SD
実験群	27人	34.7	5.45
統制群	34人	35.3	3.68

実験方法

- 多肢選択タスク

例) John lives in the country side. So, he rides
() school on the bus every morning.

a. for b. on c. to d. of

マテリアル (各3文 + 錯乱文12)

(1)a. (to コア : 着点に移動)

He rides (to) school.

b. (to 拡張 : 結果、限度、反応)

I was nearly frozen (to) death.

c. (for コア : 着点に向かう)

I have a plan (for) the party.

d. (for 拡張 : 追及、適性、適合、代入)

He was just the man (for) the position.

指導の流れ

1週目 Pretest + 指導 1 (様々な日本語表現)

2週目 指導 2 (コア・イメージ)

3週目 指導 3 (拡張) + Posttest 1

・

・ 指導は20～30分 (明示的なフィードバック)

・ テスト時間は10～15分

・

14週目 Posttest 2

指導 1

- 前置詞の日本語対応表現の確認（一対一対応になっていない）
 - to 「～に」 「～に対して」
 - for 「～へ」 「～に向かって」 「～のために」 「代わりに」
- 英文和訳の練習
to と for 各8文

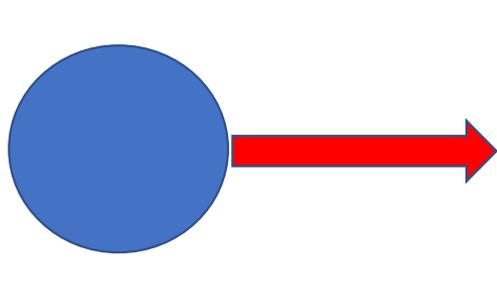
指導 2

- コア・イメージとイメージスキーマの導入
- コア・イメージに関連する英文和訳の練習
to と for 各4文

toのコア・イメージ

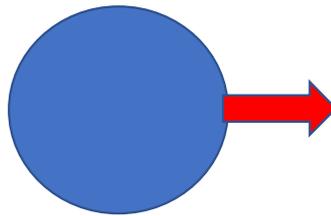
- 着点に移動する

John gave a present **to** Mary.



forのコア・イメージ

- 着点に向かっている（届いているかはっきりしない）
John bought a present **for** Mary.



指導 3

- コア・イメージの拡張

toの着点以外

結果、限度、反応、関連

forの着点に向かっている以外

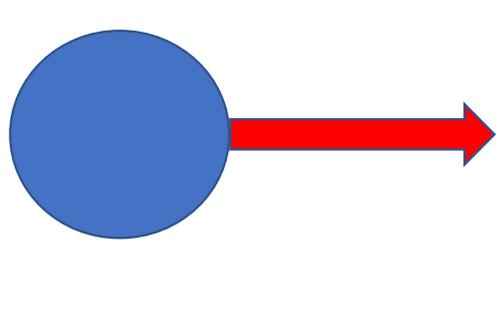
追及、準備・適合、代入

- 結果（着点から結果が生じる）

He drank **to** excess.

- 限度（着点を示す）

I read the book from beginning **to** end.

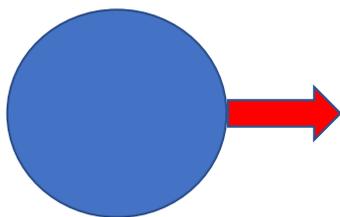


- 追及

I am searching **for** my lost purse.

- 準備・適合（備える、適する：目的から派生）

I got ready **for** lunch.



結果

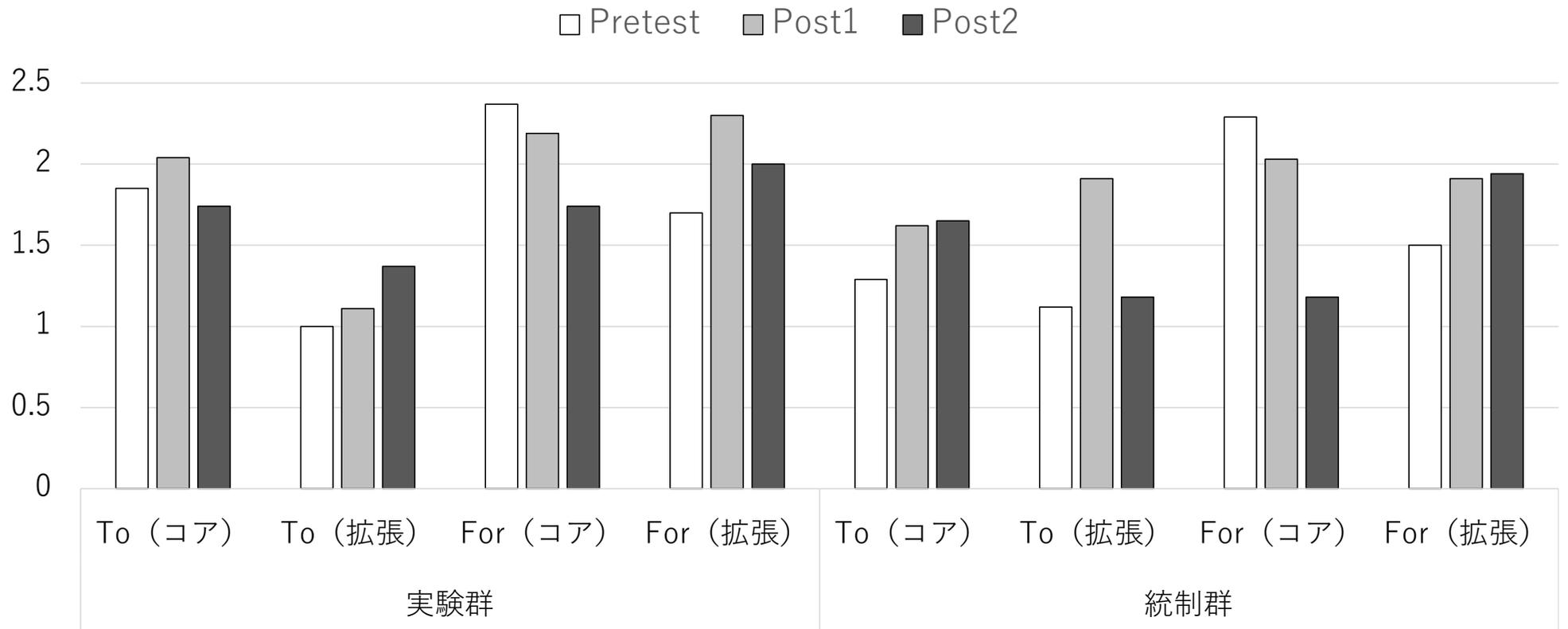


図1 テストの結果

Pretestの比較

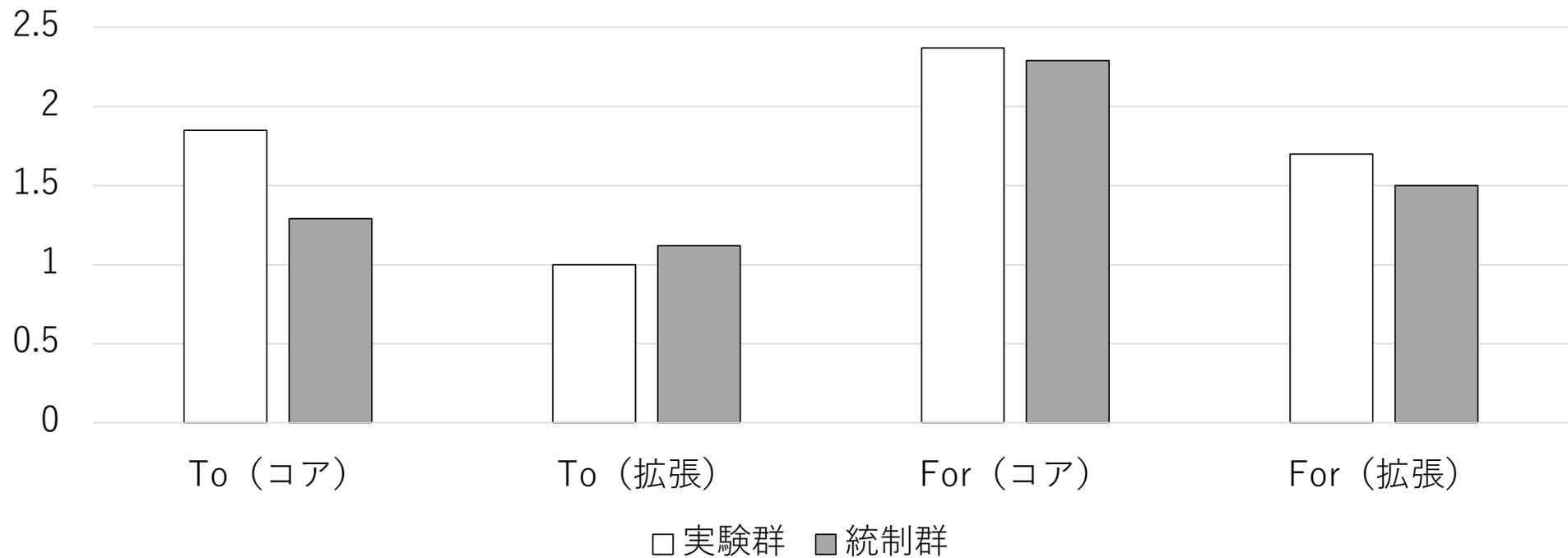


図2 Pretest

グループ間に差なし

交互作用あり (for>to) (toコア：実験群 > 統制群) (実験群と統制群のfor：コア > 拡張)

コアと拡張

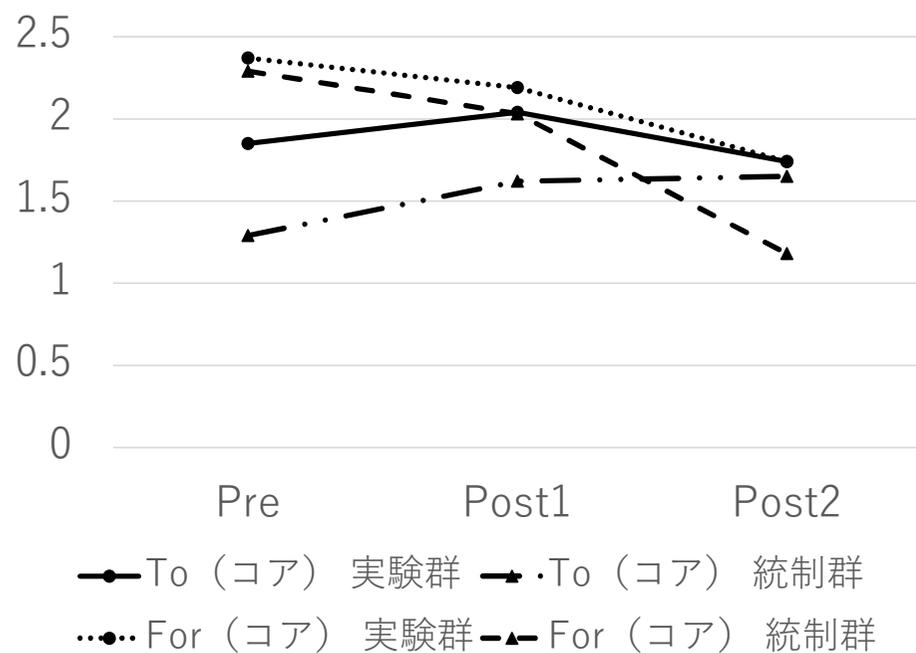


図3 コア

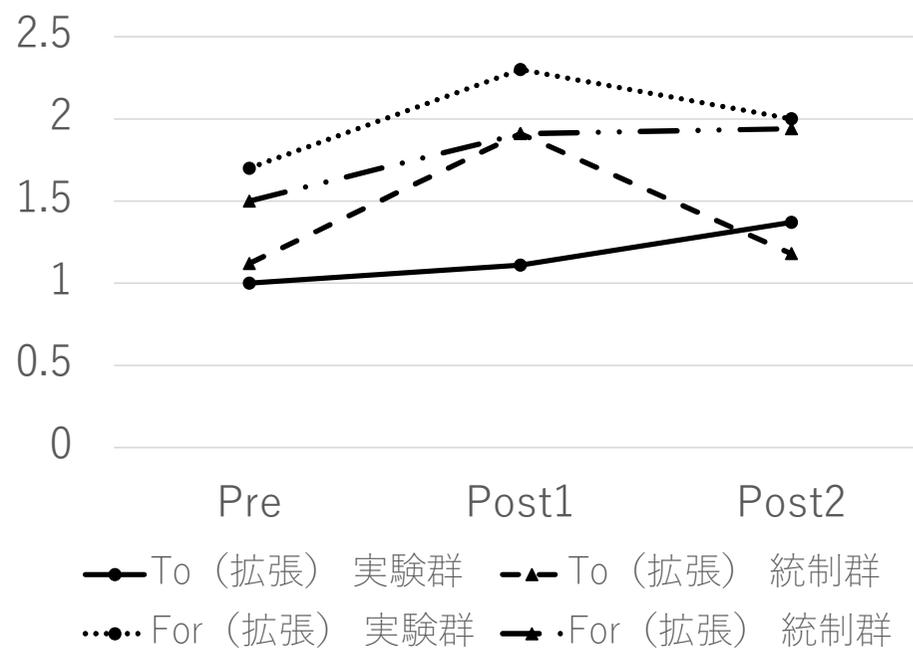


図4 拡張

コア

- For > To
- To
 - PreとPost 1 で実験群 > 統制群
- For
 - 両グループに差なし

拡張

- For > To
- To
 - Post 1 で統制群 > 実験群
- For
 - 両グループに差なし
 - Post 1 で実験群 > 統制群

Toの変化

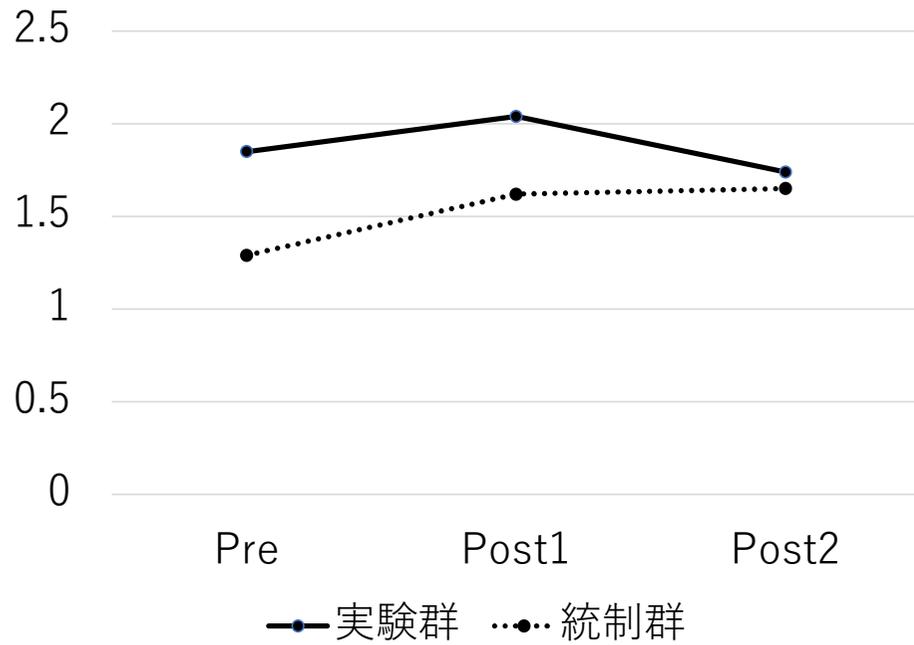


図5 To (コア)

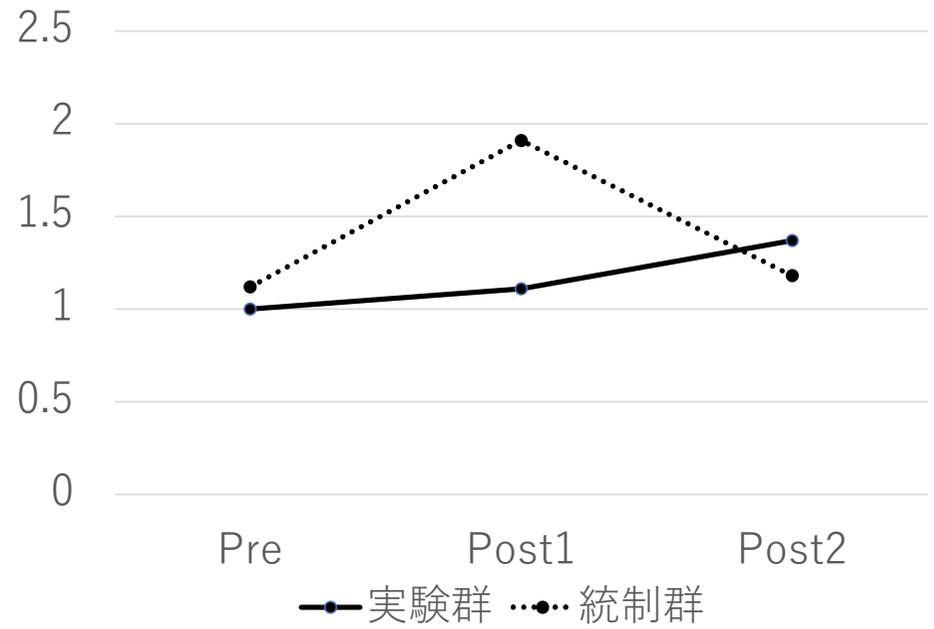


図6 To (拡張)

統計の結果

- コアはPreとPost 1 で実験群 > 統制群
- 拡張はPost 1 で統制群 > 実験群
- 実験群はコア > 拡張
- 統制群は拡張でPost 1 > Pre = Post 2

- 指導の影響は見られない。

Forの変化

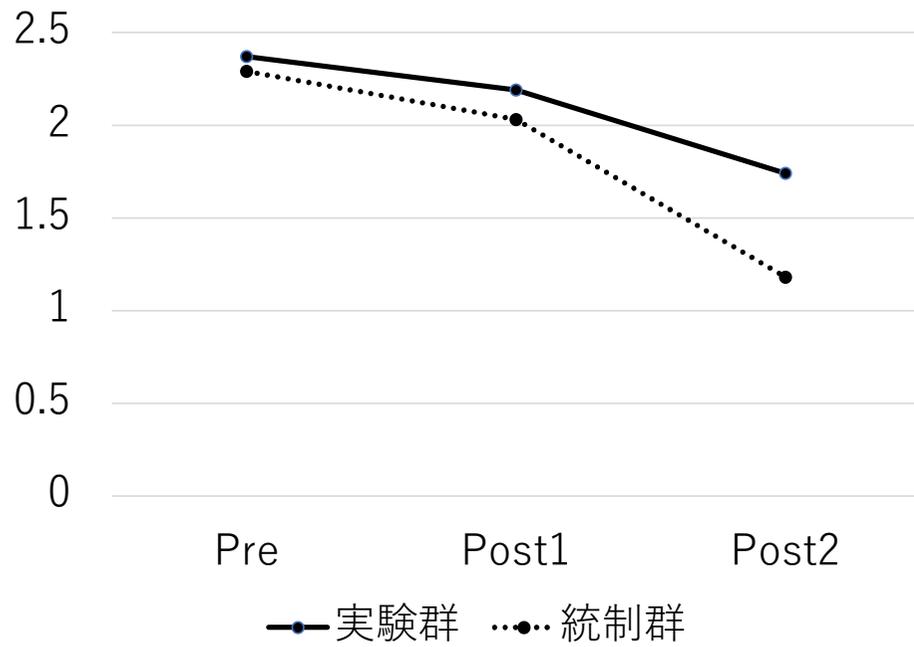


図7 For (コア)

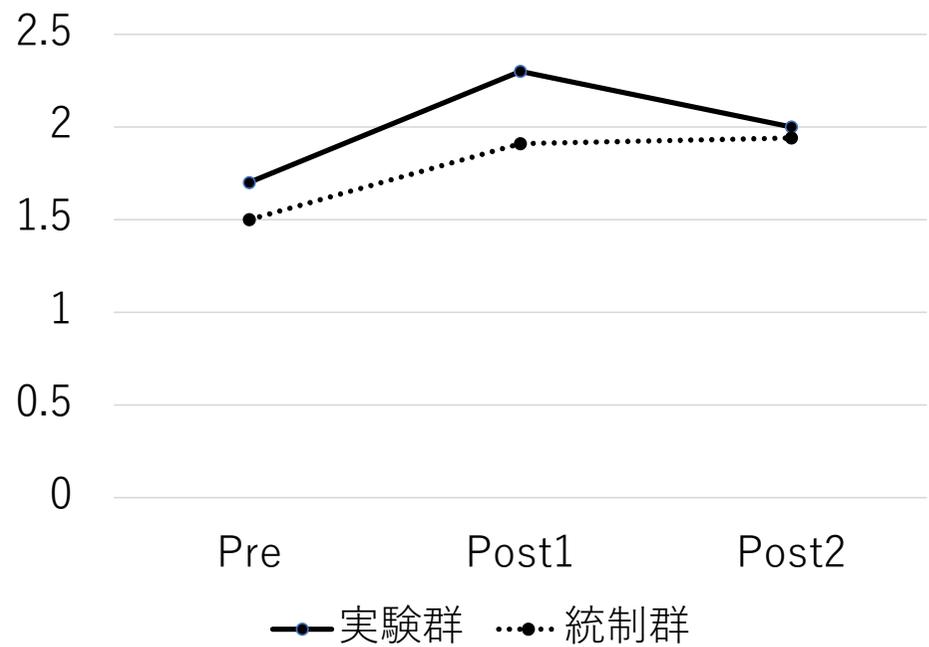


図8 For (拡張)

統計の結果

- 実験群 > 統制群
- コアはPre=Post 1 > Post 2
- 拡張はPost 1 =Post 2 > Pre

- コアについては指導の効果はない（天井効果？）。
- 拡張については指導の影響が見られる。
- ただし、交互作用はない（=統制群もできる）ため、マテリアルの問題である可能性。

まとめ

- toとforの様々な役割をコア・イメージを用いて指導を数回行った。
- コアの用法も、指導により理解が深まるわけではない。

まとめ

- toの拡張は難しく、指導の効果はない。
 - 日本語の影響
 - She could not stay to the end of the party.
- イメージが合わない。
 - This is the key to success.

まとめ

- forについては、拡張への指導に効果がある可能性がある。イメージが合うものもある。

<追及>

- My friend will enter for the contest.
- 合わないものもあるが、、、
 - He looks younger for his age.

では、どうすれば？

- 前置詞を単体で指導したとしても、あまり効果は期待できない。
- 動詞との関係、後続する名詞との関係を考慮する。
- イメージを与えたとしても、日本語が介在する。
- 日本語との違いを指導に生かす。
 - 真夜中って？（真夜中 ≠ midnight）
 - 東から昇る（から ≠ from）

参考文献

- Mitsugi, M. (2013). The effectiveness of core meaning based instruction on preposition choice. *Research Bulletin of English teaching* (10), 1-25.
- 三ツ木 真実・長嶋 みさと. (2014). コア・ミーニングを用いた多義語の指導とその有効性. 『北海道英語教育学会 紀要 14(0)』, 3-22.
- Morimoto, S. & Loewen, S. (2007). A comparison of the effects of image-schema-based instruction and translation-based instruction on the acquisition of L2 polysemous words. *Language Teaching Research* 11(3), 347- 372.
- Taferner, R. (2016). L2 learners' acquisition of the preposition to: Prototypical and polysemous features. *Studies in Human Sciences* 11, *Bulletin of the Graduate School of Integrated Arts and Sciences* I, 13-28.
- 安原千尋. (2011). 前置詞学習における認知意味論的指導に関する一考察－前置詞at, in, onに焦点を当てて－ 『中国地区英語教育学会研究紀要 41』, 21-29.